



■烏山東風の会書面総会でのコメントを紹介します■

烏山東風の会総会の代替措置として7月末に総会議案書を138通郵送、返信が93通ありました。コロナ禍で会員のみなさんがお互いの声に触れることがないなかで、それぞれの状況や情報を共有化するために、返信に添えられたコメント（抜粋）を紹介します。

●東風の会会報

- こんな状況下でも時間を作って東風の会を運営してくださりありがとうございます。家族会通信が届くたび「みんながいる！」「一人じゃない」と安心します。
- いつも大変お世話になっております。毎月送ってくださる会報の内容がいつも具体的で参考になり、明るく穏やかな彩りの紙面に心が和みます。コロナ禍でも東風の会とつながっていることで安定感が得られます。
- 毎回内容の濃い「東風の会だより」を発行・発送くださり、ありがとうございます。なるほどと思うことや同じようなことがあったとうなずくことが多々です。
- コロナウイルス感染症で大変な時「家族のつどい」「女子会」等ができなくなり皆様とのつながりが月1回の会報です。会報を送ってくださる役員の方々に感謝いたします。
- コロナ禍での活動ありがとうございます。家族会通信は明かりです。
- 家族会でつながっていただけることが、何かあっても大丈夫と思える安心感になっています。福島真由さんの異動は寂しかったですけど、離れるにあたってのお言葉と写真を載せていただいたことはとってもありがたかったです。

(編集注；みなさんの温かいコメントに世話人も勇気づけられました)



●相談活動・講演会

- ご相談できる機会が全く閉ざされて残念です。PCを使ってご相談できる方法などありましたら教えていただきたいと思えます。
- 女子会が開催されないことで話を聞いたり相談ができる場がないため辛いです。
- 親亡き後、後見人や日常の生活を保つ為の福祉活用体験や実態についての事例等を今後の参考として知りたく思えます。
- グループホームでひとり暮らしが始まりましたが、家族とのかかわり方が難しく家族のつどいや相談会が早く開催され相談できればと思えます。
- 家族のつどいが開催されることを願います。
- ワクチン接種が完了し、中和抗体ができています方であれば、家族のつどいとか様々な活動を少しずつ本来の形に戻してもいいように思えます。もちろん宣言やまん延防止措置が解除された状態が前提ですが。

(編集注；世話人会では会議終了後に世話人同士のしゃべり場を開催しています。世話人会への出席・見学のご希望があればお気軽にご連絡ください)

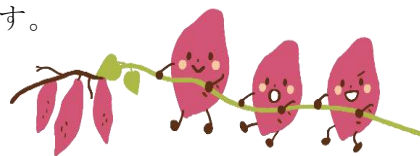


●会費・会計

- ・今年度も会報発刊発送だけで講演会ができないなら次年度の会費考えたらどうでしょうか。
- ・少し会費が高い気がしますがいかがでしょうか？理想として家族を支援するための何か資源が作れないかと思えます。
- ・会計年度は4～3月ですか？（編集注；会計年度は4月から3月です）

●東風の会の活動全般

- ・現在の状況下でよくやられていることに深く感謝いたしております。
- ・皆様にお会いできずお話が伺えないことは寂しく心細いです。
- ・若い人の情報はありますが、50代の方々の情報がありません。
（編集注；世話人会としては下期の活動再開を検討しています）



●その他

- ・8月いっぱいADHDの学習でデイケアに行っていますが、終わってしまうとまたデイケアに行かなくなると心配です。居場所が見つかるのが良いのですが。
- ・息子が大学退学後、初の夏。オリンピックのおかげで話題に事欠かず過ごせております。
- ・本人は6ヶ月のお試し1人暮らしをしています。
- ・発達が未完成であることによる生きにくさを抱えている本人をどう包み込んで行けるか試練の日々です。
- ・講演会DVDの発送をお願いしたのですがどうなっているかわからず気になっています。
（編集注；講演会のDVDを担当された横井先生に「DVDは年内発送で進めています」と確認が取れました。世話人一同も今から届くのが楽しみです）



●コロナ禍での生活と悩み

- ・本人はコロナ禍でも毎日出社しており、特に生活は変わっていません。当初マスクを付けることを嫌がっていましたが今はしています。
- ・コロナという病気に対する認識がなかなか深まらず、形の見えない恐怖というものにたいしてどう意識させて行ったらよいか本人や家族にとっての現在の課題と感じています。
- ・出勤が不規則になってしまい生活のリズムを作りにくくなりました。出勤前夜は緊張する様で寝不足になりがちです。機嫌が悪いまま出勤していくので気になってしまいます。
- ・外出が自由にできず気分が停滞する。このまま余計引き込まれてしまわないか気になる。
- ・息子が施設に入所しており、コロナ禍で再開できないので電話にて本人と話をしていますが、早く面会できることを願っています。
- ・気がかりなのは息子がコロナ感染への警戒からデイケア参加を取りやめていることです。
- ・家族がテレワークになったことで、家の中の時間空間に制限される部分が生じ、自由が多少奪われたことによるストレス、家族と同じ空間を共有することが増えたことによるストレスなどで精神的にイライラがたまるようになりました。親としてはお互いの調整と理解に苦労しています。深夜外出することがよくありましたが、その時間も短くならざるを得なくなり本人は少々不満のようです。いろいろなルーティンに変動が生じ本人なりに苦労したりがまんしたりしていますが、時々爆発してしまいます。
- ・息子はコロナ感染に不安を抱き、大変な恐怖心もあるようです。作業所も休み自宅待機の状態が半年以上続き本人も家族もストレスが溜まっています。
- ・コロナ禍でもあまり変わりなく仕事をしており、当人も幸い元気に仕事（パート）を続けています。昼間一緒にいる時間は、彼の今のマイブームに耳を傾けるようにしています。
- ・コロナの感染拡大のためデイケアに行きたいのですがいけない状況です。息子を担当して下さるスタッフから時々ケータイに電話を頂いて息子はとても喜んでいきます。



- ・当事者本人は通勤電車を気にしながら仕事も続け優先接種枠でワクチンも9月に第1回目を受ける予定です。
- ・息子はコロナ禍でも野球場、スポーツジム、飲み会、映画館等と自由気ままに過ごし、注意してもやると決めた事は必ずやる子なので早いワクチン接種を願う毎日です。
- ・娘はコロナ禍でうつ気味で一進一退です。
- ・息子はコロナ禍でも関係なく引きこもっているため影響はありません。
- ・コロナ禍の影響で作業所の業務が縮小され毎日が半ドンに。日替わりで早番(午前のみ)と遅番(午後のみ)という不規則勤務を余儀なくされ落ち着かない生活を送っています。



■ASDとダウン症、映画「旅立つ息子へ」「わたしはダフネ」■

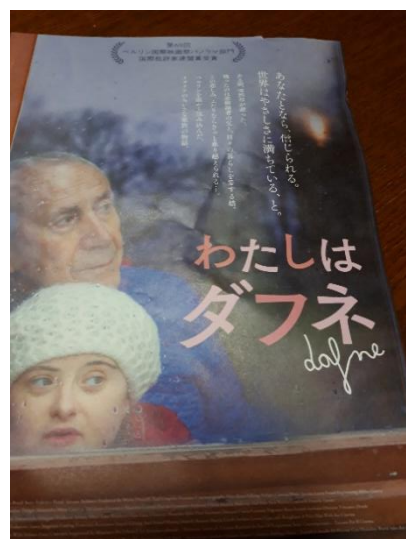
「旅立つ息子へ」

ASDの息子のために売れっ子グラフィックデザイナーのキャリアも捨て、養育方針が異なる妻とも別れて子育てに24時間を捧げてきた父。別れた妻は息子の成人をきっかけに全寮制の特別支援施設に預けることを決心します。父は施設に預けず自分の手元に置いておきたいのですが定収入もなく裁判所に養育不適合と判断されてしまいます。施設入所の日、息子は父との別れのストレスからパニックを起こしてしまいます。父は「息子は自分が守る」と息子との逃避行が始まりますが・・・

見る人によってかなり共感性が別れると思います。私は父の思いがわかりつつも過保護で過干渉に思えました。そのため息子が施設に入所し自立へ踏み出す結末に納得はできるのです。でも同時に割りきれなさが残りました。最も印象に残ったシーンは逃避行の終盤、お金を使い果たし疲れはて、海岸で休んでいたときに息子がアイスを手勝手に食べる、でも払うお金はない。アイス屋に罵られ逆上して殴りかかる父。父の怒りは理不尽なのですが、なぜか心に残るシーンでした。息子を思う気持ちは理屈じゃない面がある、と気づかされました。実話に基づくイスラエルのドラマです。

「わたしはダフネ」

予告編や紹介記事では、「母を突然亡くしたダウン症の女性ダフネが落ち込む父をつれて母の生まれ故郷へ旅をする」が筋です。つまりダウン症であることが強調されています。確かにダフネはいささか低身長で顔つきからもダウン症だと思われそうですが、物語の終盤まで「ダウン症」という明示はなく、職場のスーパーや旅で出会う人も特別な対応はしません。つまり「ダフネはダフネ」であって「ダウン症の人」ではありません。物語は妻を失いへろへろになった父親を、しっかりもので多少辛辣ですがユーモアがあり魅力的な娘が叱咤激励し旅をするという話。で、父親は「おれの娘っておれが思っていたよりやるなあ」と気づきます。今ごろ遅い、お父さん。



「親なきあと」は障害を持つ子の親の共通した悩みですが、問われるのは親のあり方だけではなく、社会のあり方も問われていると感じました。

同じイタリア映画で「人生ここにあり」という障害者を施設ではなく町で見るという政府の政策転換をテーマにした作品にも衝撃を受けましたが「障害は社会が作る」を実感しました。近視の人は眼鏡がなければ社会生活を送る上で障害を負いますが、眼鏡があればバリアフリーとなります。制度や施設に限らず社会の構成員の視点・考え方を含めたより幅広いバリアフリーが実現されることを望みます。

※ともにロードショーは終わりましたが、名画座での上映、動画配信またはDVDレンタルなどでご覧ください。(M.N)

■ 「烏山東風の会」今後のスケジュール ■

「烏山東風の会」では、新型コロナ対策対応の為、十分な活動が出来ていません。
世話人会の見学・参加、ご意見等は下記にご連絡ください

- 携帯電話 080-3009-1200
- メールアドレス kochinokai@au.com

各種、お問い合わせ、ご相談もお受けしております。



「烏山東風の会」ホームページでも、情報を発信しています。

- 「烏山東風の会」ホームページアドレス <https://www.kochinokai.com/>

■ 会費振込のお願い ■

この会報誌は「烏山東風の会」に入会している方にお配りしています。10月より下半期になりますので、下半期の会費をまだお支払いになっておられない方は、半年分3000円を、以下のいずれかの銀行口座にお振り込みいただくようお願い申し上げます。

- ① 三菱UFJ銀行 永福町支店 (普) 0106550 「烏山東風の会 会計 黒田邦夫」
 - ② ゆうちょ銀行 記号・番号：10000-29576521 「烏山東風の会」
- なお、ご自身の会費納入実績、そのほか会費にかかわるお問い合わせなどありましたら、以下にご連絡ください。：黒田邦夫 090-4173-7604

テイケア写真館

気遣いについて考える「情けは人の為ならず」

10月1日、緊急事態宣言は解除されました。私はコロナ禍の生活を通して「他者との距離を保つことも、思いやりや気遣いのひとつである」という考え方が身に着きつあります。

「情けは人の為ならず」といいますが、誰かに優しくすることは自分を大切にすることでもあります。さらに私たちはコロナ禍を経験することによって、偶然隣り合わせた、すれ違っただけの誰かを気遣う行為が、自分の命を護り、自分の大切な人の命を護ることを痛感しました。

時代とともに気遣いや思いやりの形は多様化していますが、たとえ今後コロナが収束に向かったとしても、他者への気遣いや、思いやりによって得られる好循環、それがもたらす生きやすさを追求する作業に終わりはないと感じています。(M.T)

